

沼島上立神岩



しくみ

■ 竹野神社 511.59km - 大朝日岳 - 瀧祭宮旧跡地 511.59km
同距離 助役 八柱神社、真楽寺、林溪寺 511.59km

■ 竹野神社- 177.17km 沼島上立神岩 -瀧祭宮旧跡地177.17km

■ 竹野神社- 115.03km 光徳寺- 瀧祭宮旧跡地115.03km

■ 竹野神社- 109.93km 願行寺- 瀧祭宮旧跡地109.93km

■ 竹野神社- 105.22km 住吉大明神神川神社 - 瀧祭宮旧跡地105.22km

左底角

竹野神社

創祀年代は不詳。式内社・竹野神社に比定されている古社で、三代実録に、元慶元年（877）に従五位下の神階を授かった竹野神。古くは「タカノ」と呼ばれていたが現在は「タケノ」。祭神として日子坐大命、建豊波豆良和気命、竹野媛命を祀る。竹野媛は丹波大県主由碁理の娘で、第九代開化天皇の妃となる。「古事記」「日本書紀」にも記され、竹野神社は竹野媛が年老いて天照大神を祀ることに始まると伝えられる。斎宮神社には、第三十一代用明天皇の皇子である、麻呂子親王も祀られ、鬼賊退治と丹後七仏薬師の伝承がある。京都府京丹後市丹後町宮



右底角

内宮 瀧祭神の旧跡地

鎌倉時代までは、五十鈴川の対岸にあって、この神こそアマテラスの前身とされていた。祭神は瀧祭大神（たきまつりのおおかみ）。五十鈴川の水源の神社殿を持たない神社であり、所管社でありながら別宮と同等の祭祀が捧げられる特別な神社である。社殿がない理由は神宮関係者にも分からず、更に物忌の奉仕まで捧げられることは謎であり、安永4年（1775年）の『大神宮儀式解』でも「深き所以有る故」としか触れられていない。伊勢市宇治館町

備考

線と線がぶつかるのがおよそこの位置。あまりにも河原すぎると思ったが、川の神なので丘の上の石は遥拝所なのではないだろうか。そして、諏訪大社春宮などにもあるが、中洲の「浮島神社」だったのかもしれない。とすれば、今もこのしくみは活きている。



助役（同距離）

真楽寺

平安時代初め、桓武天皇の勅願で、最澄が創建したと伝えられている。永禄12年（1569）織田信長の大河内城攻めするとき、戦火に遭い、諸堂を焼失。その後、元禄時代（1688～1704）陶栄和尚により再興され、天台宗から真言宗に改宗した。
三重県松阪市美濃田町897-1

八柱神社 不明 松阪市上川町

林溪寺 不明 伊賀市奥馬野506



勝頂角

上立神岩

沼島の東の海岸にある高さ約30mを誇る奇岩で、国生み神話ゆかりの場所であり、イザナギノミコトとイザナミノミコトがこの岩の周りをまわり、婚姻を行った「天の御柱」とも呼ばれる。

兵庫県南あわじ市沼島



光徳寺

寺伝によると、土地の住人道清が1542年（天文11鉄砲伝来の前年）に開基したといわれています。良くも悪くも有名な太閤検地－1594年（文録3年）の摂津国太田郡吹田村検地帳には「はまのとう屋敷三畝道せい」と記されています。後に寺号が許されて「善正寺」といい、1659年（万治3年）の宗旨帳の表にも「善正寺」と見えます。1713年（正徳3年）第七世住職玄貞の時に善正寺を現在の光徳寺に改めることを許されました。玄貞は土木の工を起し、門信徒の尽力をえて七間四面の現本堂を造営しました。振り返ると、伝統のある寺のように感じますが、これは必ずしも誇りうることはありません。なぜなら、江戸時代には仏教寺院が寺檀制度の中で、支配の秩序を支えてきたという事実があるからです。光徳寺もまた民衆支配のために機能してきた歴史を否定することはできません。

<http://www.koutokuji.jp/shoukai.htm>



願行寺

不明。浄土真宗本願寺派 大阪府高槻市庄所町1-1-2-9

住吉大明神神川神社

祭神－底筒男命・中筒男命・上筒男命・表津少彦命
摂社 大神宮社、稲荷社

式内社。文政年間（1818--30）、当社の神官・古川為猛（羽束師社神官でもあった）の著・“住吉社之略記”には、「鴨川・桂川の落ち合う瀬のため度々難船があり、そのために摂津の住吉社の御神体を勧請したものである」とあり（式内社調査報告・1979）、当社の原姿は摂津・住吉神社からの勧請という。また、当社に関する古資料としては、・鴨川村森内に在り。当村氏神也。下久我村の良（ウシトラ）に在り。土人神川社と呼ぶ、住吉明神也。按ずるに、村名も神川なるべきを土俗鴨川と云うは誤りかー山城名勝志（1705）・鴨川村に在り、今雲宮と称すー山城志（1734）などがある。

<http://www.y-tohara.com/kyou-kamukawa.html>

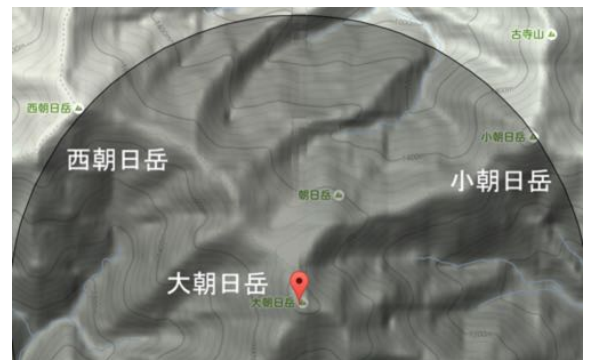
京都市伏見区羽束師鴨川町



負頂角

大朝日岳（朝日連峰）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。



しくみ ～定規とコンパス～「古墳～飛鳥時代編」2017

山形県西村山郡朝日町。

備考

三処とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳（大富権現/弁財天）・小朝日岳（子守権現/娘溝織姫命）・西朝日岳（女躰権現/木花咲耶姫命）ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。大朝日の「大」は大富の「大」。小朝日の「小」は子守の（子）なのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観大地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。

沖島（琵琶湖）

不明。

備考 島は、出雲系磐座信仰の時代は大切な聖地だ。

備考

十字架封印型のしくみ。大朝日岳を封じる代表的なしくみだと思われる。勝ち頂角の「天の御柱」の上立神岩は国産みの神であり日本最大のパワースポット。天孫族の象徴的存在。住吉大明神神川神社は三韓征伐の神功皇后の守り神。大朝日岳を抑え付けるには適役。脇侍角の竹野神社摂社の斎宮には、麻呂子親王も祀られているが、子孫は山形に来て鳥海山大物忌神社や山寺立石寺を創った丸子家。あとから加勢した形の勝ち組の光徳寺は、自らのホームページで「光徳寺もまた民衆支配のために機能してきた歴史を否定することはできません」と記している。その謙虚さと歴史を見つめる真摯な姿勢に敬服した。